

# 白色ラベンダー 「美郷雪華」が 品種登録されました。



品 種 名:美郷雪華(みさとせつか)  
品種登録の番号:第22259号  
品種登録年月日:平成25年2月12日

**白** 色ラベンダー「美郷雪華」誕生のきっかけは、平成17年6月まで遡ります。美郷町ラベンダー園内の「さきがけ」という品種の一部に白っぽい花が見つかりました。この白っぽい花に「挿し穂」という手法を用いて株の増殖を試みたところ、白色のラベンダーが花を咲かせ、2カ年にわたるその後の調査でも品種として安定していることが確認できました。

平成22年3月、公募の結果、この白色ラベンダーの名称を「美郷雪華」に決定し、同年4月、農林水産省に品種登録を申請。このたび、平成25年2月12日に品種登録が完了し、美郷町がラベンダーのオリジナル品種を保有することになりました。

美郷の初夏に美しい雪の結晶（雪華）が見られるようにとの思いから名づけられた「美郷雪華」。毎年可憐な花を咲かせ、美郷町ラベンダー園を訪れる人々の目を楽しませてくれます。今年のラベンダーまつり期間中は是非ラベンダー園にご来場いただき、紫色と白色のコントラストをお楽しみください。

# 「生薬の里 美郷」構想の実現に向けて 連携協定を締結

甘草をはじめとする薬用植物を栽培し、生薬メーカーへの原料供給地を目指す「生薬の里 美郷」構想を実現させるため、社団法人東京生薬協会（藤井隆太会長）と連携協定を締結しました。さらに、藤井会長が社長を務める株式会社龍角散と地域活性化包括連携協定を締結し、地域住民の健康推進や観光・文化振興などに取り組んでいくこととしました。

美郷町は、江戸時代に六郷地区で甘草が栽培されていたほか、秋田藩の藩医であり龍角散の原形を創製した藤井玄淵・玄信の父子が六郷出身であるなど、生薬とは縁が深い地域です。また、米の生産調整の拡大や農業従事者の高齢化、担い手不足などにより休耕



▲協定書を取り交わし、握手をする松田町長（写真左）と藤井会長（写真右）

田の増加や耕作放棄地の発生が懸念されています。こうした遊休資産の新たな活用方法を見出すため、生薬との歴史的な背景をもとに、今回の連携協定に至りました。

協定締結式は2月4日に名水市場湧太郎で開催。同協会、同社の関係者、町議など約50人が見守る中、松田町長と藤井会長がそれぞれの協定書に署名しました。松田町長は「町内の山林などを活用し地域に活力を生み出すなど、双方の取り組みがプラスになるよう歩みを重ねたい」とあいさつし、藤井会長は「龍角散発祥の地を大事にしながら、安全・安心な日本産の原料でよりよい生薬を目指したい」と応えました。

町では今後、同協会、同社と次のような事項に協力して取り組み、地域活性化を図っていきます。

## 【取り組み事例】

- ・ 遊休資産を活用した生薬の国内調達モデルの構築と実践
- ・ 生薬を交流・産業資源として活用した協会の社会貢献と町の活性化
- ・ 今年度で閉校となる千畑南小学校のグラウンドを活用し、地域住民の憩いの場となる平場の森（薬樹園）の整備など

ありがとう 137年

## 仙南東小学校閉校記念式典

2月17日に仙南東小学校（吉田聡校長）で閉校記念式典が行われ、児童や地域住民など約350名が参加しました。

式典では松田町長が「閉校記念式典という学校の節目に立ち会ったことを記憶に留め、学校の歴史を学び今後の成長の糧としてほしい」と式辞を述べました。吉田校長は「地域の方々のご協力があった仙南東小学校としての伝統がつけられてきた。ここで学んだこと、体験したことを誇りに思い、新たな伝統を築いていってほしい」と

期待を込めました。

式典に続いて、全校児童111名が「137年思い出いっぱいありがとう」と題した児童発表を上演。児童が会場全体に広がり、仙南菫蒲太鼓の演奏やよさこいソーラン節の踊りなどが行われ、出席者に元氣いっぱいの子の児童の姿を披露しました。さらに、閉校記念行事として行われた運動会や学習発表会での出来事を振り返り、「ありがとう仙南東小学校。たくさん思い出をありがとう。新しい学校でもいろんなことにチャレンジします」と今後のさらなる成長を誓い、式典を閉じました。



## 閉校記念式典日程

千畑南小学校  
平成25年3月3日(日)  
千屋小学校  
平成25年3月9日(土)